

2017年度 環境活動レポート
(2017年 7月～2018年 6月)

株式会社ワールド・クリーン

2018/11/27 発行

目次

1. 環境方針	3
2. 事業活動の規模	4
3. 株式会社ワールド・クリーン 環境経営システム 組織一覧表／役割・責任・権限表.....	6
3-1. 組織一覧表	6
3-2. 役割・責任・権限表.....	7
4. 環境目標	8
廃棄物の削減及びリサイクルの推進.....	8
CO ₂ 排出量の削減.....	8
排水量の削減	8
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備.....	8
5. 環境活動計画	9
廃棄物の削減及びリサイクルの推進.....	9
CO ₂ 排出量の削減.....	9
排水量の削減	10
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備.....	10
6. 実績	11
廃棄物の削減及びリサイクルの推進.....	11
CO ₂ 排出量の削減.....	11
排水量の削減	11
社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備.....	12
7. 環境活動計画の取組みと評価、次年度の取組み.....	13
8. 環境関連法規制等の順守状況.....	16
9. 廃棄物処理料金 単価一覧.....	16
10. 代表者による全体評価と見直しの結果.....	16
資料：株式会社ワールド・クリーン 処理フロー図.....	17

1. 環境方針

環 境 方 針

<環境理念>

当社は環境悪化ストッパーとして、現在の我々と未来の子孫が、安全快適にこの地球上で生活することが出来る環境を保持するために、『環境保全第一』を環境理念に掲げ、廃棄物を資源と捉え、廃棄物の有効活用と、法に則った環境保全を推進することが、当社の役割であることを全社員が認識し、全社一丸となって環境保全活動に取り組めます。

<環境保全行動指針>

I. 具体的行動

- ① 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
 - 産業廃棄物
 - 当社に処理を委託された全ての廃棄物のリサイクル率を常に把握し、飼料化率の向上及び廃プラスチック類のリサイクルを進める。
 - 一般廃棄物
 - 飛島リサイクルセンターから排出される可燃ごみ、不燃ごみ、紙くずの発生量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
- ② CO2 排出量の削減
 - 電力
 - 飛島リサイクルセンターの電力量を常に把握し、増加の際は原因を追及し、改善を計画する。
 - 自動車燃料
 - 営業車、トラック、フォークリフト
 - ❖ 燃料使用量を毎月モニターし、燃費悪化が著しい場合は原因を追及し改善を計画する。
 - ❖ 将来は電気やハイブリッド車輛を優先的に利用する事を検討する。
 - LP ガス
 - ❖ 飛島リサイクルセンター事務所の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
- ③ 排水量の削減
 - 飛島リサイクルセンター作業洗浄水の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
 - 飛島リサイクルセンター事務所の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。
- ④ 社会貢献
 - 未利用エネルギー資源のエネルギー化の研究開発と実施
 - 地域での環境保全活動への参加

II. 法令の遵守

- 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

III. 環境活動の公表

- 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

2010年 4月 3日

改訂：2017年12月26日

改訂：2018年 1月 5日

株式会社ワールド・クリーン
代表取締役 長尾 秀義

2. 事業活動の規模

■登録事業所の概要

事業所名及び代表者名

株式会社ワールド・クリーン

代表取締役 長尾秀義

法人設立年月日：平成4年4月17日

■所在地

本社、飛島リサイクルセンター：愛知県海部郡飛島村金岡54番

■環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者：藤本和也(事業部長)

連絡先：0567-57-0533

担当者：藤本和也(事業部長)

連絡先：0567-57-0533

■事業内容(認証・登録の範囲)

・産業廃棄物中間処理、産業廃棄物収集運搬、食品廃棄物の再生・飼料製造
(対象事業場：本社、飛島リサイクルセンター)

・廃棄物処分業許可番号：第02320075513号

許可年月日：平成26年6月11日

許可有効年月日：平成31年5月5日

・事業の規模

資本金 10,000,000 円

年間売上 737,216,658円(2017年度)

従業員数 18名

延床面積 2,000 m²

・処理能力(中間処理業)

・事業の区分

・中間処分(圧縮・選別、混練、選別、破碎、破碎・選別)

廃棄物処分業許可番号：第02320075513号

許可年月日：平成26年6月11日

許可有効年月日：平成31年5月5日

破碎・選別施設 8.72 m³/日

廃酸、廃アルカリ、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)

破碎・選別施設 29.2 m³/日

廃酸、廃アルカリ、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)

破碎・選別施設 8.4 m³/日

汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)

破碎施設 40.16 m³/日

動植物性残さ

破碎施設 17.12 m³/日

廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)

圧縮・選別施設 22.48 m³/日

廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、金属くず

選別施設 88 m³/日

汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び

石綿含有産業廃棄物を除く)、動植物性残さ、金属くず(自動車等破砕物を除く)

混練施設 156 m³/日

汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ

・収集運搬業(いずれも積替え保管を含まない)

車両台数：2台(4t脱着コンテナ車 1台、10tウイング車 1台)

(※主として場内作業用であるが、業としても稼働)

許可自治体

愛知県 許可番号02300075513

許可日 平成28年3月19日、有効期限：平成33年3月18日

許可品目

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず(自動車等破砕物を除く)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く)、ダスト類 以上14種類

岐阜県 許可番号02100075513

許可日 平成28年6月12日、有効期限：平成33年6月11日

燃え殻、汚泥、廃プラスチック類(自動車等破砕物を除く。)、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず(自動車等破砕物を除く。)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破砕物を除く。)、がれき類

上記9品目は石綿含有産業廃棄物であるものを除く。

廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、ばいじん
以上14種類

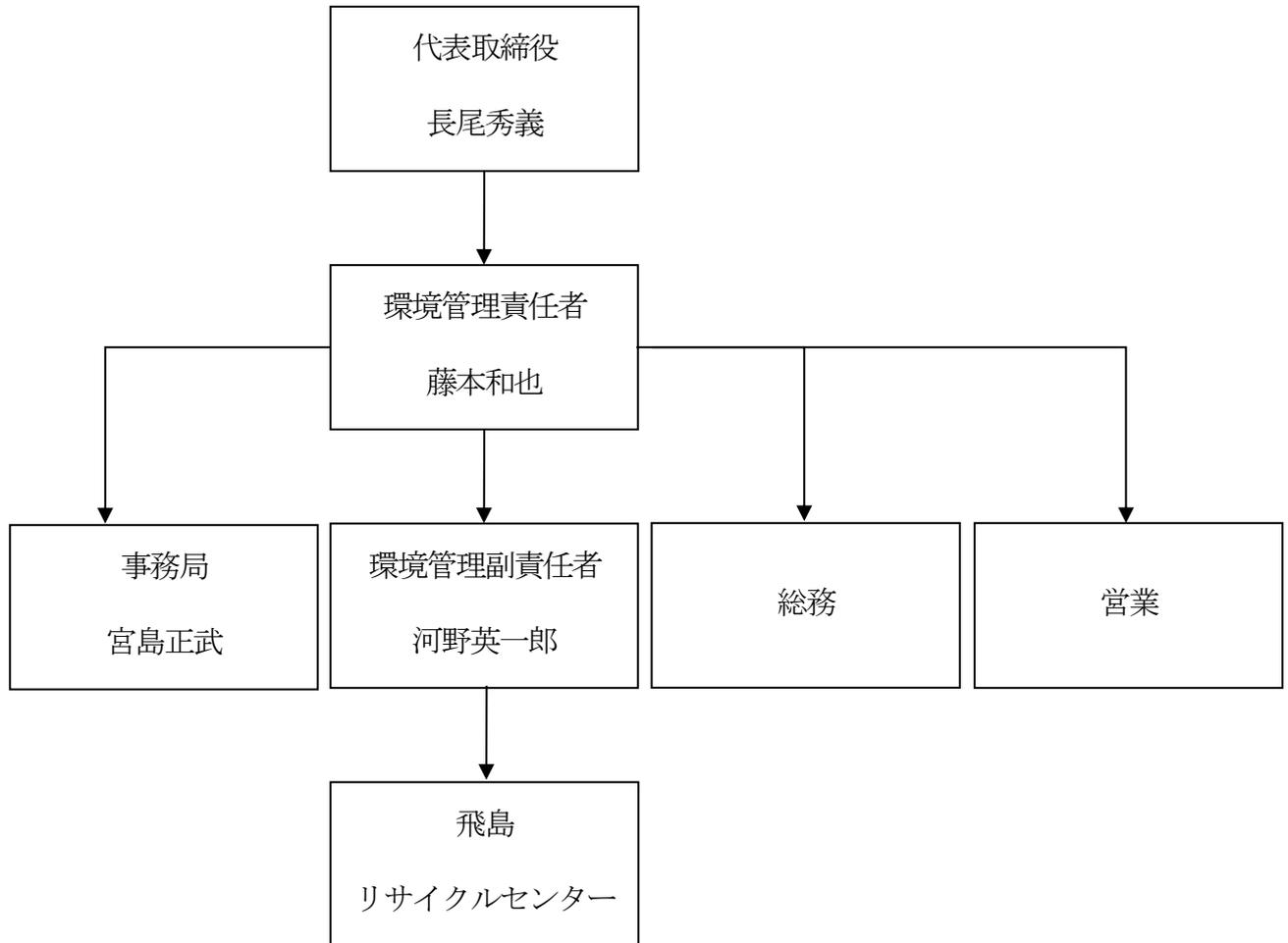
・年間処理量(中間処理業)	10,832.8t	(2017.07.01~2018.06.30実績)
・年間処理量(収集運搬業)	2,076.0t	(2017.07.01~2018.06.30実績)

■事業年度 7月 ~ 6月

3. 株式会社ワールド・クリーン 環境経営システム 組織一覧表／役割・責任・権限表

(全組織、全活動を対象として環境活動に取り組んでいる)

3-1. 組織一覧表



3-2. 役割・責任・権限表

環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を作成・承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの作成。
環境管理副責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境活動の進捗状況の確認・報告 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成補助。 ・整理整頓状況の管理
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・受入・出荷に関する集計表を作成します。 ・環境活動の実績集計。電気・水道・ガス・化石燃料の集計のほか、環境活動の実施レポートの取りまとめを行います。 ・環境への取り組み自己チェックリストを作成します。(年1回) ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。行政機関や取引先との間での環境関連のコミュニケーションの窓口を担います。コミュニケーションが実際に行われた場合には、外部コミュニケーション記録を記載します。 ・環境活動レポートの公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・毎月の社内報の発行を行います。
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4. 環境目標

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

項目 細目	基準年 (2015年度) (実績)	今年度目標 (2017年度)	次年度目標 (2018年度)	次々年度目標 (2019年度)
全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合	2.0% (227.67 t / 11,331.88 t)	3.5%	5.0%	15.0%
全排出量中の飼料化割合	33.2% (3,766.92 t / 11,331.88 t)	30%	33%	40%
一般廃棄物量 (事務所ゴミ) 総量	464.04kg	3%減 (450.12kg)	10%減 (417.64kg)	12%減 (408.35kg)

CO₂排出量の削減

(注) CO₂換算係数は0.486 kg/kWh を使用

総排出量 17年度 133,016 (kg-CO₂) 15年度 169,950 (kg-CO₂)

項目 細目	基準年 (2015年度) (実績)	今年度目標 (2017年度)	次年度目標 (2018年度)	次々年度目標 (2019年度)
受入れ廃棄物1tあたり 電力関係CO ₂ 排出量	9.67 kg-CO ₂ /t 【電力による総排出量】 105,503.31 (kg-CO ₂)	30%減 (6.76 kg-CO ₂ /t)	32%減 (6.57 kg-CO ₂ /t)	35%減 (6.28 kg-CO ₂ /t)
受入れ廃棄物1tあたり 化石燃料 CO ₂ 排出量	5.16 kg-CO ₂ /t 【化石燃料による総排出量】 56,270.49809 (kg-CO ₂)	3.1%減 (5.00 kg-CO ₂ /t)	6%減 (4.85 kg-CO ₂ /t)	8%減 (4.74 kg-CO ₂ /t)

排水量の削減

項目 細目	基準年 (実績)	今年度目標 (2017年度)	次年度目標 (2018年度)	次々年度目標 (2019年度)
受入れ廃棄物1tあたり 水使用量	0.097 m ³ /t 【総使用量】 1,071 m ³	2%減 (0.095 m ³ /t)	9%減 (0.088 m ³ /t)	10%減 (0.085 m ³ /t)

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目 細目	基準年 (実績)	今年度目標 (2017年度)
地域での環境保全活動への参加	—	地域清掃活動への参加 (継続)
グリーン調達の推進		事務用品グリーン調達率 100% (継続)
国内外環境活動への協力参加		資源再生ネット、東海農環協、CRNへの参加 (継続)
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	—	従業員環境教育の推進 (継続)
コミュニケーション体制整備		社内データ見える化推進 (継続)
環境整備		月あたり受託廃棄物処理能力1000t体制の構築 (継続)
社内美化		社内の整理、整頓、清掃の実施 (継続)

5. 環境活動計画

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

項目 細目	管理項目	具体的活動
全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合	サーマルリサイクル量 マテリアルリサイクル量	<ul style="list-style-type: none"> ・サーマルリサイクルへの排出量増加を目指す (サーマルリサイクル出荷先の開拓) ・内袋のマテリアルリサイクルの徹底 ・廃プラスチック類洗浄ライン設置
全排出量中の飼料化割合	飼料化量 全排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料化専門の担当者を置き、飼料化を推進する。 ・これまであまり進めてこなかったビン入り飲料の飼料化量を増加させる (継続)
一般廃棄物量 (事務所ゴミ) 総量	可燃ごみ量 不燃ごみ量	<ul style="list-style-type: none"> ・シュレッダーくずのリサイクルを徹底する。 ・封筒、メモ紙など古紙リサイクルの可燃ごみへの混入防止徹底

CO₂排出量の削減

項目 細目	管理項目	具体的活動
受入れ廃棄物 1 t あたり電力関係 CO ₂ 排出量	使用電力	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所照明 LED 化 ・夏季 28 度、冬季 20 度設定 (継続) ・工場天井扇の稼働台数を状況に応じて減らす (継続) ・休憩時間等の照明 OFF 等の徹底 (継続) ・工場内照明日中 OFF (継続)
	電力量増加の監視	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド値を管理する (継続) ・中部電力 WEB サービス (使用量等管理) の利用
受入れ廃棄物 1 t あたり化石燃料 CO ₂ 排出量	ガソリン使用量 フォークリフト燃料使用量 (軽油)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ推進 ※「エコドライブ手順」の遵守 (継続) ・社内報での定期的呼びかけ (継続)
	トラック燃料使用量 (軽油)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークリフトの燃料使用量把握 (継続) ・アイドリングストップ運動 ・旧型フォークリフトの入れ替え
	灯油使用量 LP ガス使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・LP ガス給湯器、高圧洗浄機 温水スイッチの制御 (温度管理) (継続) ・灯油使用量の把握 (継続)

排水量の削減

項目 細目	管理項目	具体的活動
利用水の削減	上水使用量監視	<ul style="list-style-type: none"> ・工場作業洗浄水の抑制(継続) ・加水作業の削減(継続) ・バルク洗浄水の使用量を把握し、節水対策を講じる。 ・タンク洗浄方法改善検討(継続)

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目 細目	管理項目	具体的活動
地域での環境保全活動への参加	地域清掃活動への参加	・2回/年の一斉清掃活動への参加
グリーン調達の推進	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> ・事務用品について、グリーン調達基準を満たしたものを購入 ・グリーン購入ネットワーク(GPN)に加盟する(継続)
国内外環境活動への協力参加	環境団体(UNEP等)・公共団体等開催のイベントへの協力	<ul style="list-style-type: none"> ・資源再生ネット、東海農環協への参加 ・愛知県産業廃棄物協会 活動への参加
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	体制整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員環境教育 ・環境展視察 ・セミナー参加
		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態訓練の実施 ・組織変更、社員増員 ・障害者作業スペース拡大
コミュニケーション体制整備	見える化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・処理トン数の把握(継続) ・滞留日数の把握
環境整備	防虫・防疫強化 悪臭予防	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫剤散布(継続) ・消毒薬液の変更(強化) ・水路清掃の徹底
社内美化	5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)	・毎日の清掃の実施(継続)

6. 実績

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

(注) 化学物質の使用無し。

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2017年度)	今年度実績 (2017年度)
総排出量		11,331.88 t		10,832.80 t
産業廃棄物の削減	全排出量中の廃プラスチック 類リサイクル量 (マテリア ル・サーマル) 割合	2.0% (227.67 t /11,331.88 t)	3.5%	3.0% (321.63 t /10,832.80 t)
	全排出量中の飼料化割合	33.2% (3,766.92 t /11,331.88 t)	30%	15.4% (1,671.84 t /10,832.80 t)
一般廃棄物の削減	一般廃棄物量	464.04kg	3%減 (450.12kg)	5%増 (451.90kg)

CO₂ 排出量の削減

(注) CO₂換算係数は0.486 kg/kWh を使用

総排出量 17年度 133,016 (kg-CO₂) 15年度 169,950 (kg-CO₂)

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2017年度)	今年度実績 (2017年度)
総排出量	総排出量 (kg-CO ₂)	169,950		133,016
	電力使用に伴う排出量 (kg-CO ₂)	113,680		68,283
	化石燃料使用による総排出量 (kg-CO ₂)	56,270		64,733
電力の二酸化炭素排出量 削減	受入れ廃棄物 1 t あたり電力 関係 CO ₂ 排出量 単位 : kg-CO ₂ /t	9.67	6.76 (30%減)	6.30 15年度に対して 35%減
化石燃料の二酸化炭素排 出量削減	受入れ廃棄物 1 t あたり化石 燃料 単位 : kg-CO ₂ /t	5.16	5.00 (3.1%減)	5.98 15年度に対して 16%増

排水量の削減

項目		基準年 (2015年度)	今年度目標 (2017年度)	今年度実績 (2017年度)
水使用量の削減	総使用量	1,071 m ³		1,331 m ³
	受入れ廃棄物 1 t あたり水使 用量 単位 : m ³ /t	0.097	0.095 (2%減)	0.123 2015年度に対し て27%増

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目	管理項目	活動実績
地域での環境保全活動への参加	地域清掃活動への参加	・2回/年の一斉清掃活動への参加
グリーン調達の推進	グリーン調達	・コピー用紙はグリーン調達基準を満たしたものを購入。 ・グリーン購入ネットワーク（GPN）に継続して加盟中。
国内外環境活動への協力参加	環境団体（UNEP等）・公共団体等開催のイベントへの協力	・資源再生ネット、東海農環協、CRNへの参加実施。 ・愛知県産業廃棄物協会 活動への参加実施。尾張西支部 支部役員就任。（継続） ・藤前干潟清掃活動参加
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	体制整備・強化	・従業員環境教育（愛知県産業廃棄物協会主催 実務者教育等参加） ・環境展視察 実施。 ・外部講師による安全運転講習会実施。 ・浜岡原子力発電所、メタン発酵施設視察研修実施 ・緊急事態訓練の実施（消火栓等を使用した火災訓練を実施）
コミュニケーション体制整備	見える化の推進	・処理トン数の把握(継続)実施。 ・在庫管理システムを活用し、滞留日数の把握を実施中。（継続） ・フォークリフトにナンバープレート設置。メンテナンス記録等見える化実施
環境整備	防虫・防疫強化 悪臭予防	・殺虫剤散布（夏季等）により害虫の抑制済 ・消毒作業強化（薬剤の変更）（継続） ・敷地内雨水水路清掃実施。場内水路の清掃実施。
社内美化	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）	・毎日の清掃の継続実施。

7. 環境活動計画の取組みと評価、次年度の取組み

(1) 2017年7月～2018年6月の1年間の活動と取組み及びその評価

(注) 目標の達成状況 ○：目標値以上 △：目標値の80%以内 ×：目標値の80%以下未達

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組結果の評価
<p>廃棄物の削減及びリサイクルの推進</p> <p>■産業廃棄物： 全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量（マテリアル・サーマル）割合 3.5% 結果：全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量（マテリアル・サーマル）割合 3.0% (321.63 t/10,832.80 t)</p> <p>■産業廃棄物： 全排出量中の飼料化割合 30% 結果：全排出量中の飼料化割合 15.4% (1,671.84 t/10,832.80 t)</p> <p>■一般廃棄物 一般廃棄物量 2015年度に対して3%減 (450.12kg) 結果：2015年度に対し5%増 (451.9kg) 目標の達成状況：×</p>	<p>2017年9月からの中国向け廃プラスチックがストップした影響は大きく、マテリアルリサイクル量が落ち込んだ。さらに海外に輸出されていた廃プラスチック類の国内への還流により、国内のサーマルリサイクルに大量の廃プラスチック類が入った結果、受け入れ量の制限や受け入れ品質基準の強化、処理単価の上昇などによりリサイクルが難しい状況となった。このため、廃プラスチック類のリサイクル量は大きく伸ばすことが出来なかった。</p> <p>廃棄物の飼料化については、昨年からの餌のだぶつきに加え、廃プラリサイクルの状況の変化に対応するための廃プラスチック類の品質向上のため、飼料化に十分な人材・時間を充てることが出来ず、大幅に飼料化量を減らすこととなった。</p> <p>一般廃棄物についてはシュレッダーくずを再生に回すなど努力を重ねているが、事務員が2名増員となったこともあって2015年度よりも排出量が増えてしまう結果となった。</p> <p>以上のことから、2018年度の廃棄物の削減・リサイクルの推進は目標を達成できなかったといえる。</p>
<p>CO₂排出量の削減 受け入れた廃棄物量単位重量当たりのCO₂排出量の30%削減</p> <p>■電力関係 結果：受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO₂排出量 6.30 kg-CO₂/t 15年度に対して38%減 【2017電力関係排出量】 68,283 (kg-CO₂)</p> <p>■化石燃料 結果：受入れ廃棄物1tあたり化石燃料CO₂排出量 5.98 (kg-CO₂/t) 15年度に対して14%増 【2017化石燃料関係排出量】 64,732.65 (kg-CO₂) 【総排出量】 15年度 169,950 (kg-CO₂) 17年度 133,016 (kg-CO₂) 目標の達成状況：△</p>	<p>電力関係のCO₂は大幅に削減することが出来た。これは飼料化量が減り、冷蔵庫の使用頻度が下がったということと、工場天井の水銀灯を間引きして運用するなど節電に努めた結果、大きく使用電力量を下げることが出来たからである。</p> <p>化石燃料については、残念ながらCO₂の排出量が増加してしまった。工場内の箱や床・設備の洗浄頻度が上がったこと及び廃プラスチックの洗浄に温水を使用したことから、灯油の使用量が増加し、毛k k多として受け入れた廃棄物当たりのCO₂が増加してしまった。</p> <p>全体で見れば15年度よりも大きく減少させることはできているので、目標の達成状況としては△とした。</p>

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組結果の評価
<p>排水量の削減 受入れ廃棄物 1 t あたり水資源投入量の削減 ■水使用量 2015 年度に対して 2%減 結果：受入れ廃棄物 1 t あたり水使用量 0.121 m³/t 2015 年度に対して 25%増 目標の達成状況：× 【総使用量 1,331 m³】</p>	<p>工場内の箱や床・設備の洗浄頻度が上がったこと及び廃プラスチックの洗浄に温水を使用したことから、水の使用量が増加した。中国向け廃プラスチックの停止の影響がサーマルリサイクル委託先にも及んでおり、汚れ・臭いのひどいものについては以前よりも厳しい基準で受け入れの可否が版出されている。このため、廃プラスチックの洗浄が必要となった。</p> <p>以上のことから、水資源投入量の削減目標については未達であると判断したが、水道メーターを各機器ごとに取り付け水の使用量についてより詳細に把握するようにしたので、今後それを生かしていきたいと考える。</p>
<p>社会貢献 ※現状把握及び基準の策定 目標の達成状況：○</p>	<p>例年通りではあるが、清掃活動に秋・春と参加、藤前干潟不法投棄除去作業に参加した。また、愛知県産業廃棄物協会主催の不法投棄防止パトロールに参加したほか、中部異業種間リサイクルネットワークにも理事として参加し、リサイクルや環境に関するセミナーの運営に協力した。</p>
<p>環境保全の仕組み・体制整備 ※体制整備 目標の達成状況：○</p>	<p>フォークリフトにナンバーを取り付け、整備状況を記録するとともに、定期的な整備業者による整備を委託したため、機器の不良によるエネルギーの損失などは予防できることとなった。</p> <p>場内の在庫状況やリサイクルの状況について週報を発行するようにした。これにより、経営者層が週単位で操業状況の確認が取れるようになった。</p> <p>事務員は 1 名増員した。水道使用量の記録や処理設備の整備記録など見えるかが進んだ。</p>

(注) 目標の達成状況 ○：目標値以上 △：目標値の 80%以内 ×：目標値の 80%以下未達

(2) 2016-2018年度 中期計画

2015年度までの結果を基に策定した中期計画を下表に示す。

項目	中期計画内容
廃棄物の削減及びリサイクルの推進	全排出量中の飼料化量を40%に向上(15年度 33.2%) 廃プラスチック類リサイクル量(マテリアル・サーマル)を全排出量中の5%へ向上(2015年度 1.5%) バイオ発電・燃料の事業化調査
CO ₂ 排出量の削減	※受け入れた廃棄物量単位重量あたりのCO ₂ 排出量の削減 CO ₂ 排出量6%減(15年度対比) 時間外勤務縮減(時間外勤務0を目標) 旧式トラック廃止 工場内・事務所照明LED化
排水量の削減	※受け入れた廃棄物量単位重量あたりの水資源投入量の削減 水資源投入量9%減(15年度対比) バルブごとの水道メーター設置による作業ごとの水使用量の把握・節減
グリーン調達	コピー用紙グリーン調達率100%の継続 グリーン調達品目の拡大(事務用品について100%を目指す)
社会貢献	国内外環境活動への協力参加(地球友の会他) 障がい者 作業業務拡大(6名→12名、従事作業の高度化) 障害者団体事業所をリサイクルセンター内に受け入れ
環境保全の仕組み・体制整備	見える化の推進 組織変更・正規社員(事務員・現場作業員)増員による管理能力向上 月あたり処理量1,000t体制の確立(効率アップ)

中期計画に対する実績について

飼料化する目標については、昨年同様未達となった。飼料の過剰感は未だあるため、利用者側である畜産事業者が飼料原料として購入するものを取捨選択する傾向は続いている。そのため、飼料化については厳しい状況が続いており目標達成は厳しいと考えるが、中計画最終年でもあり、引き続き飼料化量の割合を向上させるべく努力を続ける。

廃プラスチック類のリサイクルについては、予想された通り中国向け廃プラスチックの停止が非常に大きな影響を及ぼしている。海外向け停止が国内の飽和状態を作り出しており、処理を委託するだけでも大変な状態が続いている。目標が未達であり、来年も厳しい状態が続くが、廃プラスチックを焼却に依存しないことはリサイクルにとどまらず事業活動そのものに重要なことであるので、引き続き中期目標達成に向けて努力を進めていく。

CO₂排出量目標については、場内照明の管理や冷蔵庫使用頻度の削減が定着してきており、総量としては順調に削減できている。化石燃料に関するCO₂が増加してしまったことについて、増加要素である場内清掃の増加があったが、本年は増加要素があまりないと思われるため、引き続き努力すれば目標達成は十分可能であると考えられる。

排水量の削減については、廃プラスチックの洗浄に伴う水量の増加が続く見込みであるため、中期目標の達成は厳しいと考えられるが、水道メーターを増設し見える化したことで効果的な節水対策を講じることで目標達成したいと考えている。

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備については、順調に進んでいる。障害者の作業業務拡大などすでに実施済みの内容も多い。中期目標の達成は十分行えると考えている。

8. 環境関連法規制等の順守状況

適用される法規制	遵守状況
廃棄物処理法	遵守
浄化槽法	遵守
消防法	遵守
労働安全衛生法	遵守
下水道法	遵守
水質汚濁防止法	遵守
悪臭防止法	遵守
食品リサイクル法	遵守
フロン排出抑制法	遵守
愛知県条例(県民の生活環境の保全等に関する条例)	遵守
愛知県条例(廃棄物の適正な処理の促進に関する条例)	遵守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
 なお、関係当局よりの違反等の指摘及び訴訟は、過去3年間ありません。

9. 廃棄物処理料金 単価一覧

廃棄物種類	単価	単位	備考
動植物性残渣	40円	Kg	荷姿により価格は変動します。
汚泥	35円	Kg	荷姿により価格は変動します。
廃酸	30円	Kg	荷姿により価格は変動します。
廃アルカリ	30円	Kg	荷姿により価格は変動します。

上記の単価については一般的なものであり、飼料化の適・不適等により価格は変動します。
 また、容器の材質によっても変動します。(上記の価格は廃プラスチック類の場合)

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

昨年の中国向け廃プラスチックの停止の影響が色濃く出ていると思われる。事業を確実に継続するためには廃プラスチックを確実に処理していくことが非常に重要な課題となり、当社としても廃プラスチックの洗浄という新たな取り組みを実施することとなった。

プラスチックの洗浄機を稼働させることにより水使用量・電力量が増加し、労力も使用する。目標未達について外的要因ばかりあげるわけではないが、相当大きな影響があったことは確かではないか。

また、飼料化の目標未達についての分析のなかで飼料の過剰感が挙げられているが、それだけが原因ではないと考えている。受け入れた産業廃棄物の量が昨年よりも7%増加し11,000tを越えているなかで、飼料化というコストのかかる作業が行えなくなっているという面もあるのではないか。人手不足が厳しい社会情勢ではあるが、新しく雇用する或いは機器の導入による省力化など、体制整備を改めて進める必要がある。

2018年は中期計画の最終年度であるため、次の中期計画を見極めながらの1年としていきたいと考える。

